

[現状と課題]

現在は**会員**の著しい減少、そして以前のように対面で十分なコミュニケーションをとることが難しくなり、JC運動に対して様々な障害や不安要素を取り巻いています。そのような不安要素を解決し、能動的に活動できる環境を整備することと**会員**減少に対する対処が必要課題です。

[目的]

理念の浸透、JCの本質を学び、能動的に活動できる人財教育することと、モチベーションを向上させる機会の提供を行い、時代に即したJC活動を計画的に支援することを目的とします。

■運動1

JC運動共有システムの活用と推進(ブロ連) (推進)

- 1) 実施に至る背景：現在は各LOMの過去議案資料しか閲覧できない状態にあり、凝り固まった考えを改善する必要があります。
- 2) 目的：Gian Pocketを採用させ、それぞれの良き過去事例を閲覧することで一人ひとりの発想を豊かにさせ、事業構築の生産性の向上と質の高い教育を得ることを目的とします。
- 3) 事業内容：Gian Pocketの導入と活用方法の推進
- 4) 実施期間：通年
- 5) KGI：県内9LOMで導入し、使用状況を100%にする。
アカウント未登録LOMに登録の案内をして、活用方法を提案して運用サポートする事で、使用頂ける環境を構築する。
- 6) 得られる効果：経験の少ない**会員**でも、議案書作成、事業構築を行う環境を整備することで、会議の質を高める。
- 7) パートナー：JCI日本、運動プラットフォーム構築委員会、県内9LOM

■運動2

会員拡大に関する調査及び連携 (推進)

- 1) 実施に至る背景：会員数が20名を切るLOMは約6割であり、10人以下の少人数LOMも約1割と**減少**し続けている状況にあります。人財不足による組織力低下は現状の課題であり早急に人財の拡大を行うため支援を行う必要がある。
- 2) 目的：新たな**会員**が入る仕組み作りを提案し、絶対的な会員数を純増させると共に、強い組織づくりをします。
- 3) 事業内容：①LOMの現状会員数、増減の推移を調査
②会員拡大の推進
③会員拡大ツールの提供、作成
- 4) 実施期間：通年
- 5) KGI：2022年度6月末までに前年度6月の会員数を20パーセント上回る。
KGIの根拠：現状の会員数から、減少をさせないための目標数を設定。
- 6) 得られる効果：現状の行われている会員拡大の方法の見直しができることと、他のLOMの**会員拡大事例の共有**することで会員拡大の問題点を解決することへつなげる。
- 7) パートナー：JCI日本、会員発掘会議、県内9LOM

■運動3

L O Mに寄り添った支援体制の推進(プロ連) (推進)

- 1) 実施に至る背景：現在、会員数が20名を切るL O Mが6割を占めています。組織力がますます低下している状況であり、円滑にするための支援と規定の見直しを行い、機動的な体制を整える必要があります。また、L O M発展の起爆剤となる戦略的かつ持続可能な支援を行う必要があります。
- 2) 目的：人財育成とL O Mの組織力向上に向けて寄り添った支援を行い、L O Mの発展を目指し持続可能な事業体制を整えます。
- 3) 事業内容：①各L O Mの現状会員数、増減の推移を調査
②各L O Mの定款の調査
③新入会員の意識調査
④各L O Mの相談支援窓口の開設
⑤L O Mに寄り添った支援
- 4) 実施期間：通年
- 5) K G I：県内9 L O Mへの支援相談を年内2回行う。
K G Iの根拠：現状把握のために、各L O Mごとに支援相談を行い、具体的な問題点の抽出し、解決の提案へ繋げるための最低限の面会数。
- 6) 得られる効果：適切な支援をすることで、L O Mの人財教育、運営方法に関する問題を解決することができる。
- 7) パートナー：J C I日本、県内9 L O M

■運動4

ブロック協議会卒業式の実施 (事業)

- 1) 実施に至る背景：奈良ブロック協議会において活躍された卒業生に、感謝と新たな舞台での活躍をご祈念し、厳粛ながらも華やかな会を開催します。
- 2) 目的：奈良ブロック協議会卒業生の軌跡をまとめ新たな門出を祝う。
卒業生と現役会員のより深い絆と心に残る良き思い出を作り、
現役会員のJ C運動に対する士気を上げ意識を向上します
- 3) 実施期間：2022年12月
- 4) 事業内容：①卒業式の開催
②引き継ぎセレモニーの実施
③次年度役員の紹介
④2023年度奈良ブロック大会のPR
- 5) K G I：2022年度ブロック全体〇名（うち卒業予定者〇名）の出席率75%
過去の開催実績
2021年ブロック全体216名 参加者 〇名 出席率（現在未開催の為、不明）
2020年ブロック全体214名 参加者104名 出席率48.5%
2019年ブロック全体253名 参加者151名 出席率60%
2018年ブロック全体289名 参加者149名 出席率51%
- 6) 得られる効果：奈良ブロック協議会に多大な貢献をされた卒業生の軌跡を振り返ることで、今までの活動を讃えます。現役会員は卒業生のこれまでの活躍を見て頂くことで次年度からの活動のモチベーションが高まります。

7) パートナー : 県内9 L O M

■運動5

J C I A S P A C 堺高石大会への協力・参加推進・開催地支援 (事業／推進)

- 1) 実施に至る背景 : 近年新型コロナウイルス感染症による社会現象で、海外への渡航することも制限されている状況にあり、そのような中でも J C は運動を止めることなく活動を起こしている **会員** と共に、新たな可能性へ協力、支援する必要があります。
- 2) 目的 : 国際的な視野を持つために、より多くの **会員** に参画させ、世界の情勢を体感すると共に改めて日本の良さところを知り、 **意識向上を図る** ことを目的とします。
- 3) 実施期間 : 2022年5月26日から2022年5月29日
- 4) 事業内容 : 奈良ブロック内各 L O M に **会員** に参加推進、事業の内容に応じて、開催地の支援を行う。
- 5) K G I : ①参加いただいた **会員** のアンケート調査 理解関心度を70%以上。
②不参加の **会員** のアンケート調査
K G I の根拠 : 事業へ関心度を正確に図ることと、不参加 **会員** の理由把握をする事が今後の事業構築への判断材料となるため。
- 6) 得られる効果 : L O M、ブロック協議会を超えた事業に参加することで、最新の世界の情勢を体感して新たな可能性の発見を得ることができる。
- 7) パートナー : J C I 日本、J C I 堺高石、県内9 L O M